

一の宮っ子

第48、49、50合併号

発行
一宮市児童育成連絡協議会
事務局
一宮市栄3丁目1番2号
尾張一宮駅前ビル4階
(一宮市社会福祉協議会内)
TEL 0586-85-7024
FAX 0586-85-7025

令和4年3月17日

ウェブサイト「一の宮っ子」<https://www.intell-inc.com/ichinomiya.jido-ren/>

令和3年度も「コロナ禍」で、子ども達が楽しみにしている行事や活動が思うようにできず年度末を迎えます。「子ども交流会」「新年子ども会大会」等々の中止、唯々残念な結果になりました。現在コロナ感染症は収束の願いも叶わず、年明けからむしろ勢いを増し急速に拡大しています。さらに悪いことに、子ども達に感染が拡大しています。心配でなりません。治療薬の開発と希望する子ども達へのワクチン接種がすすむことを願っています。この様な厳しい状況の中、指導者の皆様には、お手元の『コロナ禍における育成者の心得』をもとに、コロナ流行の下火時を見計らって感染症対策を取り、参加者の安全と安心を第一に考え取り組んで頂きました。壁新聞作成はその一つです。大変なご苦労をおかけし本当に感謝します。子ども会は、地域を基盤にした異年齢の子ども達が、地域の行事への参加、仲間との遊びやスポーツを通じて社会性を身につけて成長していく大



「指導者の皆さんへ」
子ども会活動の発展

一宮市児童育成連絡協議会
会長 内田 清

事な役割を担っています。今後「子どもによる子どものための子ども会」活動をめざし、子ども達にとって「子ども会が楽しい！」と言える子ども会になるよう創意工夫を続けていきたいと思います。さらに、子ども会に対して時代の変化に対応した活動が求められています。子ども達のニーズや体験活動の多様化、新しい生活様式への移行、指導者・育成者の負担の軽減、行事見直しと精選、地域社会との繋がりの希薄化などです。特にコロナ禍においては様々な場面で相談や協力作業が不足し、活動のノウハウが伝わらないことです。子ども会活動を持続発展させるためには、人や地域の繋がりをどう立て直して再構築していくべきか大きな問題になっています。私達はこれらの問題と真剣に向き合って活動を進め、子ども達の笑顔と健やかで心豊かな成長を確かめながら、子ども達とともに楽しく活動を続けていきたいと思っています。



▲ロケットを遠くまで飛ばそう♪

開明連区 小原子ども会
四年 野上 優奈
11月13日、私は、ペットボトルロケットとカラフルわたがし作りに初めて参加しました。ロケット飛ばしは、3回でき、わたがしは、2回作れました。ペットボトルロケットでは、まず始めに、水を入れ、5回入れました。空気を入れたのがものすごくたいへんでした。ロケットを飛ばすときは、すごくきんちようしました。いざ飛ばしてみたら、遠くへ飛びとてもうれしかったです。すごく楽しかったです。

カラフルわたがし作りでは手にわたがしがついたりしました。上手な人は、地球がたになっていました。しっぱいした人は、たてに長かったりしていました。わたがしは、色が4色ありました。色はホワイト、ピンク、イエロー、ブルーがありました。私は、最初にブルーをやって、次にピンク、イエロー、ブルーをやりました。味はとってもおいしかったです。わたがしを作るのは、とてもむずかしかったけど、楽しかったです。また、来年度も参加したいです。



▲楽しいわたがし作りにチャレンジ

児童福祉週間事業

かべ新聞

※審査は中日新聞一宮総局に依頼しました。

最優秀作品



葉栗連区
高田子ども会

葉栗連区 高田子ども会

六年 上野 葵涼

今回私達葉栗連区高田子ども会は、「SDGs」をテーマとして、六年生全員が力を結集して色々調べました。この壁新聞でSDGsが分かりやすいように17のテーマの17色を使って表現しました。

自分の住んでいる場所にどんな植物があつて生き物がいるのかを男の子達が自転車で探検して写真を撮ってくれました。女の子達はそれをまとめたり配置をして協力して出来たのが六年生最後の思い出に。学校でSDGsを学び、自然にふれあい楽しくていい経験になりました。

今は地球温暖化が進んで海や森に住んでいる生き物が苦しんでいると思うと心苦しいです。海や川の中、森はゴミがたくさんあり、生き物が間違えて食べて死んでしまう。渡り鳥が風力発電に巻き込まれて死んでしまう事を知って少しでも助けてあげたい...と思いました。

その中で私達は、恵まれた環境で幸せに生きてい

る事を改めて思い、身近な生き物たちを大事にしたいです。

高評

「SDGs」をテーマにすると大上段に構えてしまいがちですが、自分たちが親しんでいる足元の草花や動物、捨てられたゴミといった身近なものに視点を合わせ、自分たちで撮った写真を使った点が優れています。教科書で学ぶよりもSDGsを身近に感じることができそうです。

優秀作品



北方町連区
狐塚ニコニコ子ども会

北方町連区 狐塚ニコニコ子ども会

六年 江尾 幸芽

私達のかべ新聞はSDGsをテーマにつくりました。SDGsをテーマにした理由はテレビで最近、SDGsについてやっていて今の環境について、私達にできることはないか調べてみようと思ったからです。

かべ新聞づくりは、みんな初めてだったので、試行錯誤しながらつくっていききました。作成の流れは、一人一人がSDGsの中で一つのテーマを決め、それについて自分の考えや現状、これからについてをまとめたりしました。そのまわりに狐の絵をはったりして、狐塚らしいかべ新聞にしました。

今年度はまだコロナ禍で、行事がなくなつてしま

い、かべ新聞もみんなが集まって一からつくる事ができませんでしたが、優秀賞をとることができていい思い出となりました。来年度は、コロナが収まり、今まで通り、楽しい子ども会活動ができるようなと思います。

高評

こちらも今、いちはん問題になっている「SDGs」に狙いを絞っており、子どもたちの問題意識がよく分かります。陸や海、プラスチックごみなどと役割分担して、それぞれ何が問題となっているかを紹介しています。ただ、同じテーマを選んだ最優秀賞の作品に比べて、やや抽象論にとどまったのが残念です。

優秀作品



萩原町連区
花井方子ども会

萩原町連区 花井方子ども会

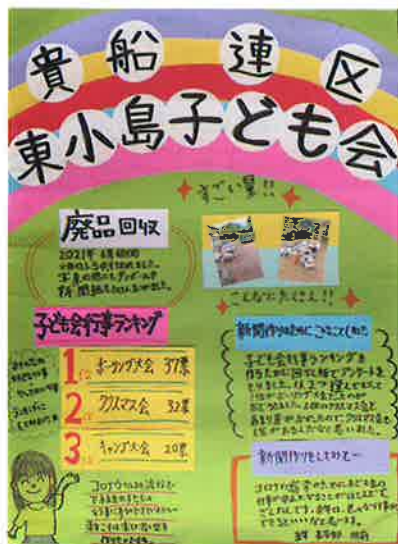
六年 田口 慶兜

ぼくたちの子ども会は、ぼくたちの住んでいる花井方についてのかべ新聞を作りました。

最初は、何をすればいいのかわからなくて話し合いもなかなか進みませんでした。みんなで調べたいことの意見を出し合い、その結果、花井方のみどころについて調べることにしました。

ぼくは、信号の数が萩原小学校までに何基あるのかを調べました。

実際にその場所まで行って写真をとり、画用紙に



貴船連区
東小島子ども会



宮西連区
仲よし子ども会

高評
地元をくまなく歩いて、自分たちで撮った写真を使ってわが地域のことを詳しく紹介しています。地域の大人の方でも知らないこともあるのではないのでしょうか。写真に添えられたコメントを読むと保護者や地域の人たちにしっかり話を聞いて取材していることがよく分かります。

地図を書き、のりで写真を貼り、かざり付けをして、ぼくたちの花井方地図を作りました。かべ新聞を通して、花井方をみんなに知ってもらえたらうれしいです。キツネの目撃情報やなどの鳥居など、みなさんも探してみてください。この作品を作ったことで花井方を知る、とてもいい経験になりました。



大志連区
D☆Friends子ども会



神山連区
野口第二わらべ子ども会



神山連区
一色子ども会



葉栗連区
土居子ども会



富士連区
わかば子ども会



向山連区
向山子ども会



西成連区
丹羽子ども会



西成連区 張淵、春明、西新田、
子どもの家ともいき、定水寺子ども会



西成連区
中島子ども会



丹陽町連区
外崎子ども会



西成連区 西屋敷南、馬見塚、
大西、野口、水法、南小瀬子ども会



西成連区 柚木嵐、柚木町、
小赤見、さくら、明星子ども会



丹陽町連区 九日市場、
伝法寺本郷子ども会



丹陽町連区
せんい若竹子ども会



浅井町連区
大日比野子ども会



浅井町連区
東尾関子ども会



浅井町連区
河端子ども会



大和町連区
観音寺子ども会



大和町連区
宮地2丁目子ども会



大和町連区
南高井子ども会



今伊勢町連区
郷東子ども会



今伊勢町連区
東山之小路子ども会



千秋町連区
加茂子ども会



萩原町連区
ほたる子ども会



奥町連区 瀬古、丁田、
北町、辰巳町、新川崎子ども会



小信中島連区
上町・大蔵子ども会



千秋町連区
新しいつみ子ども会



千秋町連区
東馬場子ども会



木曽川町連区
鉄砲町子ども会



開明連区 高野島なかよし、北野府、
南野府、小原、新田、将監子ども会



大徳連区 西五城中・南、うぐいす北、
うぐいす南、富田中町、北今子ども会



木曽川町連区
野方子ども会



一宮市
ジュニアリーダークラブ



ジュニアリーダー

高一 松下 愛

一宮市ジュニアリーダーは一宮市内の小学五年生から大学生まで40人ぐらいのメンバーが集まって動いています。子ども会で行われるおたのしみ会や一宮市民会館、木曽川体育館、一宮スポーツ文化センターで行われるイベントでゲームやバレー、プラ板づくりをしたり、昨年は出来ませんでした。夏に

行われる東海北陸の研修会や資格認定の合宿、一宮市のジュニアリーダーが主催する他市との交流会を行うなど、そのときそのときにあった楽しい時間を計画して準備し活動しています。

参加することも楽しいですが、ジュニアみんなで準備してる時間が一番楽しいです。

写真の壁新聞は毎月一、二回の土曜日から日曜日に行われる定例会で作成しました。

定例会では、その月の連絡、イベントのためのゲームなどを行っています。

学校の定期テストや模試、部活なども配慮して自由参加なので中学生にも参加しやすいです。

ジュニアリーダーは、大きな行事での計画の大切さを学んだり、大勢の人の前でのびのびと楽しんで話せるようになり、活動自体がとてもいい経験になります。

私も学校のスピーチ大会での優勝や、修学旅行で友達とゲームで盛り上がったのはジュニアリーダーのおかげだと思います。小学五年生から入ることができるのでコロナ禍で話し相手が欲しい人、ひとと繋がりたい人、イベント好きな人、楽しいことが好きな人、気になった人はお友達と一緒にでも大丈夫なのでウェブサイトを、「一宮市ジュニアリーダー」を覗いてぜひ見学しに来てください。

一宮市ジュニアみんなで待っています！

意見発表

千秋町連区 町屋子ども会

六年 伴野 帆香

私たちの町屋子ども会は一年生から六年生まで全員で74人います。

本来なら3月の歓送会から始まり、町内の方々と楽しみにしていらいっしやる、お獅子お神輿を持って練り歩く秋祭り、六年生の卒業旅行と、その他にもたくさん行事があるはずでした。

コロナ禍での学年という事で、保護者の方々は、考慮しながら少しでも思い出を作ったあげたいと縮少して会を開いてくださったたりしてくれたのが、とても嬉しかったです。

一年生で子ども会に入ってから、ずっとみんなで楽しみにしていたユニバーサル・スタジオ・ジャパンへの卒業旅行は行けませんでした。本当に残念でしたが、町屋の歴代恒例行事の一つで、私には姉がいるのですが、ずっと話を聞いていたので、みんなで思い出作りの一つができなかったのが残念でした。

コロナが収束して一日も早く元の生活・活動が再開できる事を願っています。

子ども会もあと数ヶ月で終わってしまいますが、残りの行事を楽しみたいと思います。

(令和3年12月寄稿)

開明連区 小原子子ども会

五年 寺谷 侑朔

ぼくたち、開明連区の小原子子ども会は、小原おたのしみ会として、毎年夏にボウリングをします。

まずはチーム分けから、うまそうなメンバーといっしょのチームになるかのドキドキから始まります。

いろいろな学年とチームになるので、少しきんちょうします。

初めは真ん中にボールが投げられずうまくいかなかったけど、ボウリングがうまい人の投げ方を見て、少し回転をかけてみたり、投げる位置をかえてみたりしました。全部たおれますようにと思いがたに見ている間はドキドキしますが、ピンがたおれていくとワクワクしてどんどん楽しくなり、あつという間に時間が過ぎてしまいました。みんなが手をたいたいてよこんでくれたし、チームのみんなでもり上がれてとてもうれしかったです。

今年度は、コロナのえいきようで子ども会の行事はほとんど中止になってしまいました。来年度は最後の子ども会なので、たくさん楽しい思い出ができるといいなと思います。

KYT講習会

浅井町連区

安全部長 山田 陽子

今回のKYT研修（危険予知トレーニング）はグループワーク形式ではなく、講義形式で安全に関する知識と情報を得ることができました。

子ども会の担当者として、これまで気づかなかった子ども会活動の場面において、様々な危険が潜んでいる事を理解すると同時に、研修で学んだことを子ども達と共に実践してゆく必要性を再認識しました。

様々な制約がある現状の活動ではありますが、可能な範囲で子どもたちに体験から自ら学ぶ場面も多く提供できる子ども会であるよう計画し、指導者目線ではなく子ども目線で考え、お互いに学び合う関係を築きながら、安全で安心な子ども会活動を実現できるように努力することが大切だと思います。

指導者としての心構えも必要なことであり、目をかけて、

声かけて、手をかけて、を対応の原点とし、子ども達が自身の安全は自分で守る能力を身につけられるよう、関わっていきます。



▲安全に関する知識を学ぶ参加者

小信 中島連区
安全部長 篠田 敦子

4月13日「KYT講習会」を受講しました。

今回の、危険予知トレーニングは、集会が終わって大ぜいの子ども達が出てきたイラストシートを見て危険ポイントを見つけ意見を出し合いました。子ども目線としては、ポケットに手を入れて走ったり友達に手を振りながら走ると衝突して危険、またコロナ感染対策としてマスク着用な



▲子ども会活動において大切な危険予知

どの近年ならではの意見があります。

大人目線としては、集会でもらったお菓子や友達とのおしゃべりに気をとられている子が道路にとび出さないか注意するなどの意見でした。

大人は子どもの立場に立ちそれぞれの立場から危険を予知し、実際に事故が起きた場合の心構えをする事が重要だと気づきました。講習を終えて令和2年から軒並みイベントが中止になり子ども達もストレスでいっぱいです。今まで以上に危険な行動をとってしまいかもしれません。Withコロナ時代を乗り切り一年見守りたいと改めて思いました。

表彰

市長感謝状10年

大和町連区 内田 清
貴船連区 原田 英樹
神山連区 吉田 和江
三条連区 渡辺 之良
貴船連区 加納 知恵利
大和町連区 宇佐見 弘美
萩原町連区 坪内 知明

一宮市表彰

北方町連区 野崎 武志
北方町連区 宇佐見 茂子
丹陽町連区 大島 良幸
丹陽町連区 橋本 好行

全子連表彰

今伊勢町連区 新開子ども会



県知事表彰
貴船連区 原田 英樹

県子連表彰
丹陽町連区 野村 俊郎
宮西連区 奥田 純子

県知事表彰
浅井町連区 大日比野子ども会

県社協会会長表彰
宮西連区 北神明3、4仲よし子ども会
千秋町連区 佐野子ども会

県子連会長表彰
貴船連区 両郷寺連子ども会
神山連区 一色子ども会
西成連区 馬見塚子ども会



広報委員

河辺 三代・大窪 文子
奥田 純子・祖父江 佐知子
赤野 ルミ子